

## 2. 3 発泡性状

### A. 温度と発泡時間（水と攪拌した場合）

水とNLペーストを十分に攪拌した場合の発泡時間は、図-2. 2に示したように温度が高くなるに伴って短くなる。夏期の日照を受ける部位での施工や高温水槽への施工では、発泡時間が短くなる。一方、冬期の低温度下の施工では、発泡が終了するまで長時間かかる。また、NLペーストと水を十分に攪拌した場合には、NLペーストと水の混合比率が発泡時間に及ぼす影響は少ない。

なお、実際の使用では、水とNLペーストは図-2. 2を求めた実験のように十分に攪拌されていないので、発泡硬化時間は図より長くなる。

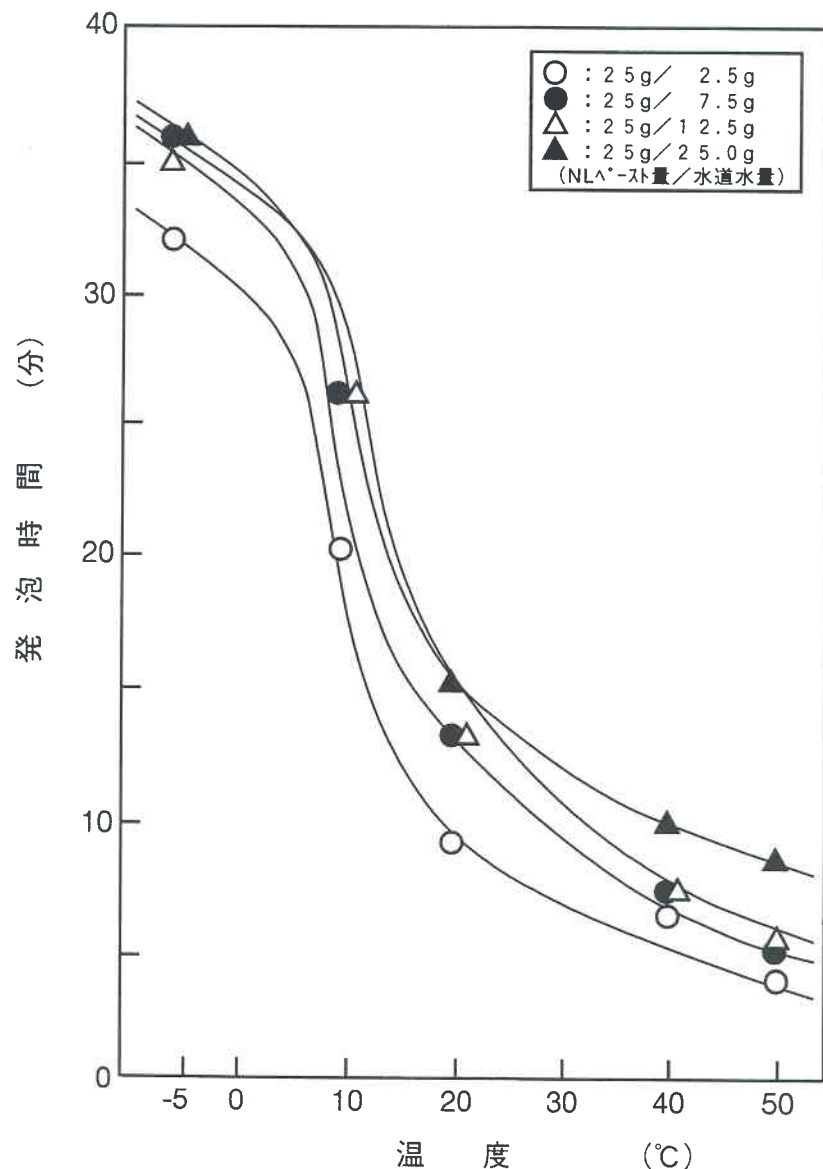


図-2. 2 温度と発泡時間の関係

## B. 水と攪拌しない場合の発泡性状

NLペーストと水を攪拌しない場合には、図-2.3に示したように発泡反応は水との境界面でゆっくりと進み、未反応なNLペーストがなくなるまで継続する。樹脂ポケット及びひび割れのNLペーストは、充填される過程で水と随分攪拌されているが、例え水と攪拌されていなくても、コンクリートひび割れ部の水分と反応し、いつまでも未反応物として残る心配はない。

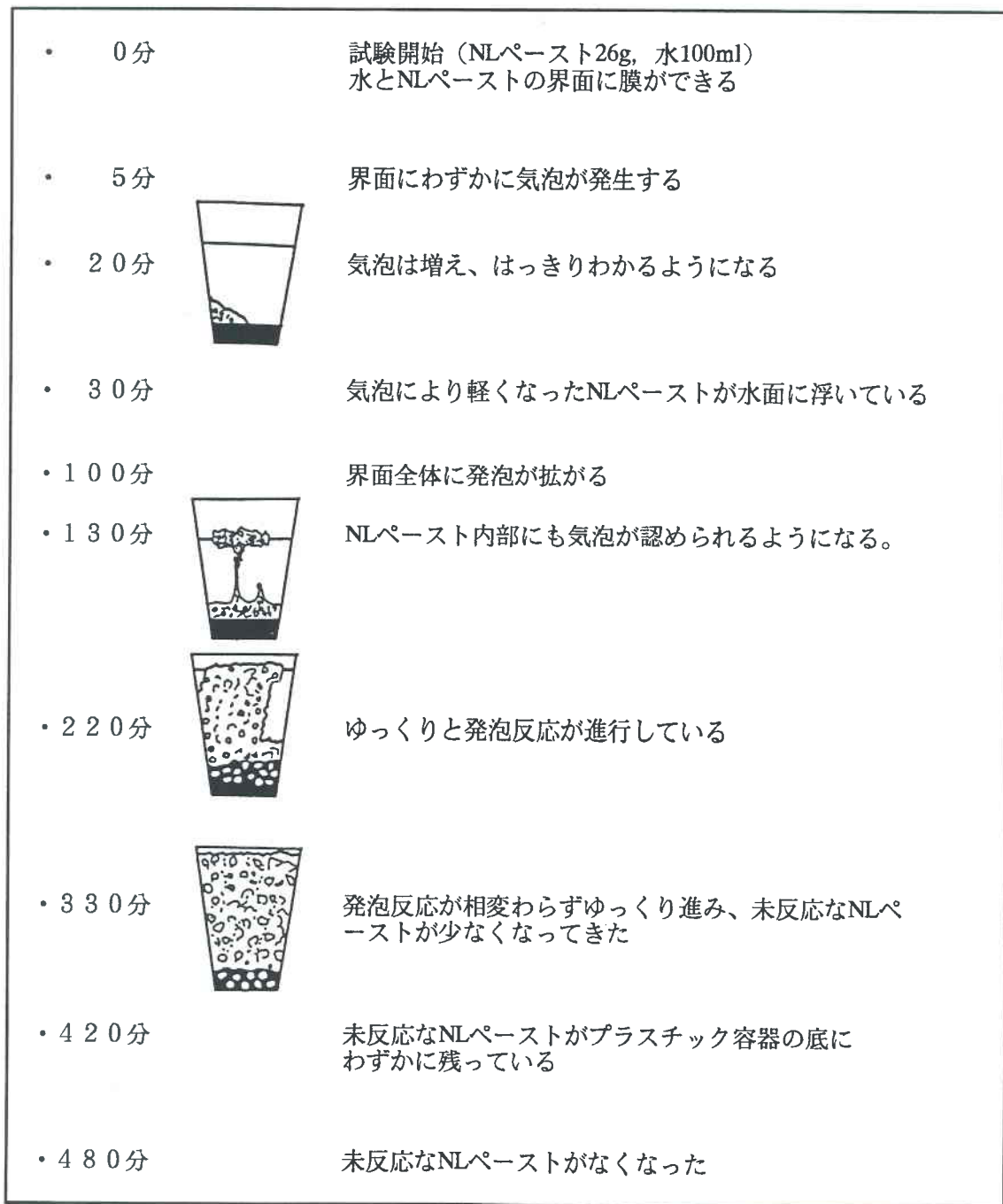


図-2.3 水とNLペーストを攪拌しない場合の発泡性状